

第1回緑化技術研修会

クビアカツヤカミキリ対策で

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センターは5月27日、令和7年度第1回緑化技術研修会「特定外来生物クビアカツヤカミキリ対策講座」を開き、座学と現地見学を実施した。

クビアカツヤカミキリは主にサクラやモモなどバラ科の樹木を加害し枯死させる害虫。平成30年に「特定外来生物」に指定

された。

研修会でははじめに、大阪府のクビアカツヤカミキリ対策の取り組みについて説明した。

大阪府では、府内各局や市町村と連携し被害発生地点の調査を実施。同研究所による調査結果の解析により、過去の被害地点から3^{キロ}以内では次の被害が発生する可能性が高いことが判明した。大阪府がホームページ

ジに掲載する被害警戒地域図の確認を呼び掛けた。

また、本年の6月2日から8月29日にかけて、府は被害抑制を目的に成虫を捕獲するイベント「サクラを守れ！クビアカツヤカミキリ『夏の陣』」を開催。捕獲数上位の参加者には景品が贈られると周知した。

生態を学んで
的確な防除を！

ネットの巻き方に注意

樹木を食害するのは幼虫で、「フラス」と呼ばれる木くずや

糞の混合物を排出する。クビアカツヤカミキリのフラスはスプレーでアイスクリームの表面を薄く削った際の形状に似ており、他の昆虫のフラスと見分けの際の判断基準となる。

予防対策にはネット巻による産卵防止、薬液の樹幹散布などが有効。ただしネット巻の際はネットと幹の間隔を1^{センチ}以上は開けておくことが重要で、幹とネットの間隔が狭いと成虫の産卵管が幹に届いてしまい、予防効果が低下してしまう。ネットの目合いは0・4^{ミリ}4^{ミリ}までが

適していると解説が行われた。

(林佑)



予防資材の実演を見る参加者たち

天気のおっちゃんのコラム

気象予報士、元普及指導員

森田 彰朗

第十六回

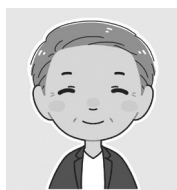
「北大阪で一番の大雨」

北大阪の日降水量の記録

アメダスデータから読み取れる、これまでの府内での記録的な気象現象の2回目。今回は雨です。調べてみると、北大阪と南大阪で傾向が分かれました。今回は北大阪編です。

能勢の最大日雨量は265^{ミリ}

雨が降ったのは2018年7月5日です。能勢で265^{ミリ}、茨木209^{ミリ}、枚方183^{ミリ}でいずれも昨年までの1位、豊中の192^{ミリ}は4位の降水量でした。能勢では72時間で498^{ミリ}となり、1年の約3分の1が降った計算になります。この日に何が起ったのでしょうか。

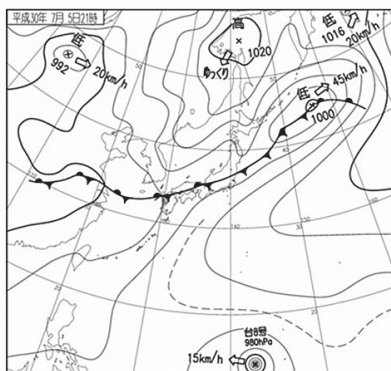


台風崩れ低気圧＋梅雨前線

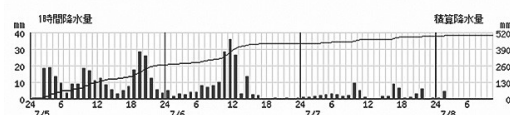
天気図をご覧ください。千島の東にある低気圧は、2日前には九州の西を進んでいた台風でした。台風としては弱まったのですが、太平洋の暖湿気を大量に日本上空へ運んできました。それが日本上空に停滞していた梅雨前線に供給され、西日本全域に大雨をもたらしたのです。グラフは、このときの能勢の雨量の経過を示したものです。雨のピークが5日に3回あったあと、6日にもう一度ピークがあります。梅雨前線の大雨は長時間続くため、いったん小降りになっても、また強くなり、災

西日本豪雨という大災害

このときの豪雨は、後に西日本豪雨といわれ、中国地方を中心に大きな被害が出ました。特に、岡山県倉敷市では洪水により52人が亡くなりました。梅雨末期の大雨、特に台風を伴うものには警戒が必要です。



能勢



ワンポイント農業気象(7月)

梅雨前線による大雨
高温多湿による熱中症対策